

# C型肝炎 インターフェロン治療終了後について

[ \_\_\_\_\_ ]さま

## 【現在の状態】

- お疲れ様でした。あなたは[ \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_ ]の期間C型肝炎に対し{1:インターフェロン単独療法、2:インターフェロン・リバビリン二剤療法、3:3剤併用療法}の治療を行い、このたび終了となりました。
- 採血で確認するかぎり、現在血液の中にウイルスはいません。ただし肝臓の組織の中に潜んでいるウイルスが完全に絶滅したかどうかは現時点ではわかりません(治療開始から血液中ウイルス消失までの期間、薬剤を規定量使用できたかどうかなど、さまざまな要素が影響します)。

## 【今後について】

- 治療を終えたのち、これから6ヶ月間経過をみてゆきます。
- C型肝炎ウイルスはRNAウイルスという比較的不安定な形態で、増殖せずに長らく肝内に潜むことはできません(B型肝炎ウイルスは安定した形で長期間潜在できる)。C型肝炎ウイルスが存在するには盛んに増殖する必要があります。
- もし肝臓の中にウイルスが生き残っている場合、必ず再増殖します。インターフェロン終了後、ウイルスは徐々に数を増やし、以前とあまり変わらない程度まで血液中に増えてきます。したがって6ヶ月経っても血液中にウイルスが検出されない場合、肝臓のウイルスが完全にいなくなったと判断できるのです。
- ウイルスがもし全滅していない場合、残念ながら目標達成とはいえません。(最近の研究では、全滅しないまでも治療で一旦はウイルスが血液中から消滅した方では肝臓のリスクが減ることがわかっています)。この場合AST/ALTなどの肝機能は正常～軽度上昇など様々です。状況に応じて再治療を検討しましょう。
- 煙草を吸っていた人が禁煙しても、その瞬間から肺がんのリスクが正常人なみにはさがらないのと同様、ウイルスを駆除しても肝臓のリスクはすぐにゼロになるわけではありません。従って、ウイルス治療後も数年は癌のリスクが多少とも健常人よりも高いということを自覚し、**癌の定期健診(超音波・CTなど)は受ける必要があります**。(勿論、ウイルス駆除が成功していれば、肝臓の発がんリスクは年々下がっていきます)。

上記内容を説明しました。

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_